

# 標準高次動作性検査（SPTA） プロフィール 自動作成ソフトウェア

Ver. 1.0

本ソフトウェアは、標準高次動作性検査（SPTA）の結果を入力していただき、その数値を元にプロフィール（棒グラフ）を出力するソフトウェアです。

一般社団法人 日本高次脳機能障害学会

# — 目次 —

1.	概要.....	2
2.	環境.....	2
2-1.	推奨 Excel バージョン .....	2
3.	入力について .....	3
3-1.	入力手順について .....	3

## 1. 概要

SPTA.xls（以降、本ファイルとする）は、標準高次動作性検査（以降、SPTA とする）の検査結果を入力、管理するファイルです。

## 2. 環境

### 2-1. 推奨 Excel バージョン

本ファイルは Microsoft Office Excel<sup>1</sup> 2003 SP3 以上、2007 SP2 以上推奨です。

---

<sup>1</sup> Microsoft®Office,Microsoft® Excel は 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

### 3. 入力について

図1はSPTAの実施結果を入力するシートです。

標準高次動作性検査成績												
		氏名 ( )				検査日 ( )						
大項目	指示様式	誤り項目数						誤反応率*				
		誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			全項目数 <sup>f</sup>	①	②	0%	50%	100%
		2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>						
1. 顔面動作	口頭命令	0	0	0	0	0	3					
	模倣	0	0	0	0	0	3					
2. 物品を使う 顔面動作	物品(-)口頭命令	0	0	0	0	0	1					
	物品(-)模倣	0	0	0	0	0	1					
	物品(+ )口頭命令	0	0	0	0	0	1					
	物品(+ )模倣	0	0	0	0	0	1					
3. 上肢(片手) 慣習的動作	右手, 口頭命令	0	0	0	0	0	3					
	右手, 模倣	0	0	0	0	0	3					


図1 SPTA入力シート

#### 3-1. 入力手順について

① 氏名を入力してください。

シート上部に氏名を入力する欄がありますので、マウスでクリックして選択し、氏名を入力してください(図2)。

標準高次動作性検査成績												
		氏名 ( )				検査日 ( )						
大項目	指示様式	誤り項目						誤反応率*				
		誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			全項目数 <sup>f</sup>	①	②	0%	50%	100%
		2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>						
1. 顔面動作	口頭命令	0	0	0	0	0	3					
	模倣	0	0	0	0	0	3					



標準高次動作性検査成績												
		氏名 ( 日本 太郎 )				検査日 ( )						
大項目	指示様式	誤り項目						誤反応率*				
		誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			全項目数 <sup>f</sup>	①	②	0%	50%	100%
		2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>						
1. 顔面動作	口頭命令	0	0	0	0	0	3					
	模倣	0	0	0	0	0	3					

図2 患者氏名の入力について

② 検査年月日を入力してください。

シート上部に氏名を入力する欄がありますので、マウスでクリックして選択し、『(西暦4桁) / (月) / (日)』の形式で入力してください(図3)。Excelの機能で、『(西暦4桁)年(月)月(日)日』の形式で表示されます。

成績												
		氏名 ( 日本 太郎 )				検査日 ( )						
指示様式		誤り項目数						誤反応率*				
		誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			全項目数 <sup>f</sup>	①	②	0%		
		2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>						
口頭命令		0	0	0	0	0	3					
模倣		0	0	0	0	0	3					



成績		氏名 ( 日本 太郎 )		検査日 ( 2011年1月5日 )						
指示様式	誤り項目数						全項目数 f	①	②	0%
	誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			全項目数 f				
	2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>					
口頭命令	0	0	0	0	0	3				
模倣	0	0	0	0	0	3				


図 3 入力日の入力について


③ 検査毎に評価の内容を入力してください (図 4)。

「誤り項目数」のセルのみ入力可能です。この入力箇所の評価値がグラフに描かれます。

指示様式、全項目数や項目名などのセルは入力できないようになっています。また、非実施項目は空欄のままにしてください。

グラフは、下記の計算式に基づいて、色分けされて出力されます。

修正誤反応率① =  $\frac{a+b-(c+d+e)}{f-(c+d+e)}$       表示: 

修正誤反応率② =  $\frac{a+b-(d+e)}{f-(d+e)}$       表示: 

入力後のサンプルを図 4 に示します。

標準高次動作性検査成績		氏名 ( 日本 太郎 )		検査日 ( 2011年1月15日 )									
大項目	指示様式	誤り項目数						全項目数 f	①	②	誤反応率*		
		誤反応項目数		このうち A または P に起因する誤反応項目数			誤反応率*						
		2点 <sup>a</sup>	1点 <sup>b</sup>	A <sup>c</sup>	P <sup>d</sup>	A+P <sup>e</sup>					0%	50%	100%
1. 顔面動作	口頭命令	1	0	1	0	0	3		33%				
	模倣	2	0	1	0	0	3	50%	67%				
2. 物品を使う 顔面動作	物品(-)口頭命令	0	0	0	0	0	1						
	物品(-)模倣	0	0	0	0	0	1						
	物品(+ )口頭命令	0	0	0	0	0	1						
	物品(+ )模倣	0	0	0	0	0	1						

図 4 入力サンプル

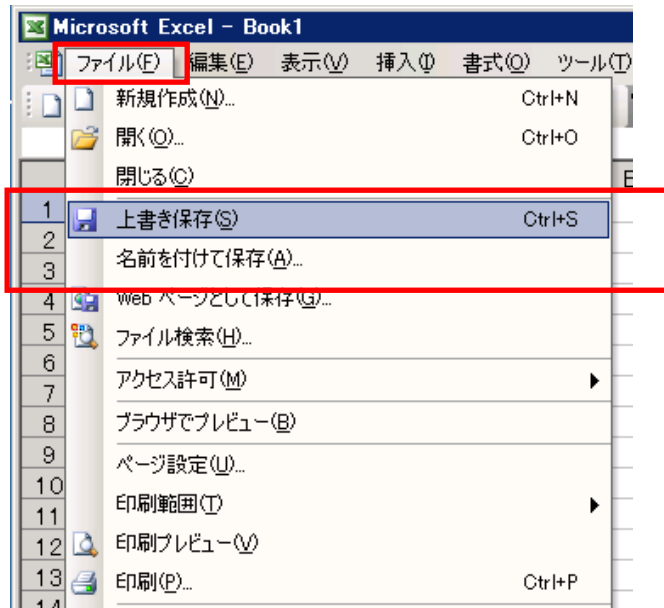
## ※入力データの保存について

自動的に実行されませんので、以下の手順で入力データの保存を行って下さい。

### ■Excel 2003 の場合

現在のファイル名で保存する場合は、『ファイル(F)』 - 『上書き保存(S)』を選択します。

ファイル名を新しくつけ直す場合は、『ファイル(F)』 - 『名前を付けて保存(A)』を選択します。



### ■Excel 2007 の場合

現在のファイル名で保存する場合は、『Microsoft Office ボタン』 - 『上書き保存(S)』を選択します。

ファイル名を新しくつけ直す場合は、『Microsoft Office ボタン』 - 『名前を付けて保存(A)』を選択します。

